

村雨の露もまだひぬ

まよひの葉に霧立ち

村雨 霧

のぼる秋の夕暮れ

中一三五

あわただしく通り過ぎたにわか雨が残した露もまだ
乾ききらないのに、槿の葉にはもう霧が立ちのぼっていく
秋の夕暮れである。(なんとももの寂しいことではないか)
(百人一首 八七番 寂蓮法師)